AddPoint/MailWallServer V7.3
アップグレードパッケージ リリースノート

本アップグレードパッケージを適用することにより GUARDIANWALL V7.4 でリリースされたアップグレードモジュール※が適用されます。
以下、3 件の仕様追加、2 件の仕様変更、42 件の修正が行われます。

※NEC サポートポータルよりダウンロード可能な修正物件「【GUARDIAN】アップデートモジュール 20110610、20110624、20111114、20111221、20120321、20120518、20120920、20121205、20130517」が適用されます。

1.仕様追加

(1)zipパスワード判定の仕様追加対応

検査・配送ルールの数値条件に設定するSIZE関数、ATTACHMENT関数について
パスワードロック機能(passwordlock、nopasswordlock、nopasswordlock+)の仕様を追加します。
※既存のルールはアップグレードパッケージ適用後も動作は変わりません。

追加されたパラメータの説明や設定例、注意事項については以下の通りです。

■書式

passwordlock=<パスワードロック判定タイプ>
nopasswordlock=<パスワードロック判定タイプ>
nopasswordlock+=<パスワードロック判定タイプ>

※passwordlock、nopasswordlock、nopasswordlock+ を単独で指定した場合はpartタイプ(デフォルト)の動作となります

<パスワードロック判定タイプ>
part(デフォルト)
zipファイルに格納されたファイルのうち、1つでも暗号化されているものがあれば「パスワードロックあり」と判定する。(これまでの仕様)。

all

zipファイルに格納されたファイルのうち､全てのファイルが暗号化されていれば「パスワードロックあり」と判定する。

※「all」はzipファイルのみ対応しております。
そのため､zip以外の圧縮ファイル(rar､arj､7zip)については指定されたタイプに関わらずpartタイプとして動作します。

■各パラメータの設定内容

passwordlock､passwordlock=part
パスワードが設定された添付ファイルだけを対象
※部分的にパスワードが設定された添付ファイルも対象

nopasswordlock､nopasswordlock=part
パスワード設定の無い添付ファイル、パスワード設定の判定ができない対象ファイルを対象
※パスワード有無の識別が可能なファイルについて、部分的にパスワードが設定された添付ファイルは対象外

nopasswordlock+､nopasswordlock+=part
パスワードの有無の識別が可能なファイルで、パスワード設定されていない添付ファイルだけを対象
※パスワード有無の識別が可能なファイルについて、部分的にパスワードが設定された添付ファイルは対象外

passwordlock=all
パスワードが設定された添付ファイルだけを対象
※zip ファイルについては、部分的にパスワードが設定された添付ファイルは対象外
※その他パスワード有無の識別が可能なファイルについては、部分的にパスワードが設定された添付ファイルも対象

nopasswordlock=all
パスワード設定の無い添付ファイル、パスワード設定の判定できない添付ファイルを対象

※zip ファイルについては、部分的にパスワードが設定された添付ファイルも対象
※その他パスワード有無の識別が可能なファイルについては、部分的にパスワードが設定された添付ファイルは対象外

nopasswordlock+=all
パスワードの有無の識別が可能なファイルで、パスワード設定されていない添付ファイルだけを対象
※zip ファイルについては、部分的にパスワードが設定された添付ファイルも対象
※その他パスワード有無の識別が可能なファイルについては、部分的にパスワードが設定された添付ファイルは対象外

■設定例
・部分的にパスワードが設定されているファイルも含めて、パスワードが設定された添付ファイルが1つ以上ならば真
attachment(passwordlock=part) >= 1
attachment(passwordlocck) >= 1

・部分的にしかパスワードが設定されていないzipファイルをパスワード設定なしと見なし、パスワードが設定されていない添付ファイルが1つ以上ならば真
attachment(nopasswordlock=all) >= 1

■注意事項
・zip ファイルを作成したZIP圧縮ツールによっては、パスワードロック有無を正しく判定できない場合があります。

・zip ファイルの作成方法によっては、パスワードロック有無を正しく判定できない場合があります。

・zip ファイルに格納されるディレクトリや空ファイルの暗号化有無については、パスワードロック判定時の対象外とします。

(2)検査・配送ルールによる添付ファイル自動暗号化切替機能追加

添付ファイル自動暗号化機能は添付ファイルの自動暗号化を「暗号化しない」または「全メール暗号化」で選択する仕様でした。
アップグレードパッケージ適用により「検査・配送ルールで指定されたメールのみ暗号化」が追加され、検査・配送ルールの適用結果に応じて 「暗号化する/しない」が選択できるようになりました。

変更されたパラメータの説明や、設定例、注意事項については以下の通りです。

■変更されたパラメータについて

設定ファイルパス（管理サーバ）:
/opt/Guardian/Admin/etc/wall/mss.conf

[Encrypt]セクション
Encryption ：0/1/2
添付ファイル暗号化機能を使用する。
0 ：添付ファイル暗号化機能を使用しない。(旧設定値FALSE)
1 ：添付ファイル暗号化機能を使用する。(旧設定値TRUE)
2 :検査･配送ルールで指定したメールのみ添付ファイル暗号化機能を使用する。

※旧設定値TRUE/FALSEについてもアップグレードパッケージ適用前環境との互換性の為残しております。

■管理画面からの設定手順例

1)情報管理者アカウントにて管理画面にログインし、[メール]→[システム管理]→[添付ファイル暗号化設定]を開きます。

2)表示された画面より[添付ファイル暗号化設定機能]にて[検査･配送ルールで指定されたメールのみ暗号化]を選択します。

3)[設定]ボタンをクリックします。
※検査サーバサービスの再起動が発生します。

4)[メール]→[ポリシー設定]→[検査・配送ルール]を開き、[編集]ボタンをクリックします。

5)[動作詳細設定]をクリックします。

6)[添付ファイル暗号化]項目が追加されておりますので、お客様の運用ポリシーに合わせ設定を変更してください。

7)[更新]ボタン、[登録]ボタンの順にクリックしてください。

8)[登録]ボタンをクリックし、設定を反映させてください。
※検査サーバサービスの再起動が発生します。
再起動後にGUARDIANWALLが受信したメールから検査・配送ルールで指定されたメールのみ暗号化いたします。

■保留メールの動作について
・保留メール送出時に暗号化 する/しない については、その送出時点でのEncryptionの設定によって判定し、以下の通りの動作を致します。

暗号化しない
暗号化しないで送出いたします。
保留時に暗号化「オン」となっていた場合でも、暗号化はいたしません。

全メール暗号化
暗号化して送出いたします。
保留時に暗号化「オフ」となっていた場合でも、暗号化いたします。

検査・配送ルールで指定された メールのみ暗号化
保留時のEncryptionの設定値に関わらず、保留時に適用されたルールにそって暗号化・非暗号化で送出いたします。

■注意事項
・添付ファイル暗号化機能を利用するためには、管理画面[メール]→[システム管理]→[基本設定]→[拡張]タブにある [メール送信]設定が[MSP経由]である必要があります。

・ルールで指定できるのは添付ファイル自動暗号化の オン/オフ のみです。

自動暗号化のその他の動作については添付ファイル暗号化設定画面やサーバ設定ファイルで指定してください。

・動暗号化対象のメールは、FromアドレスがGUARDIANWALLの内部ドメインとして指定されているドメインのメールです。

・検査・配送ルールの動作が転送の時は暗号化されません。

・パスワード通知メールは検査・配送ルールにて設定した「通知メール」の宛先ではなく、サーバ設定ファイル（mss.conf）で指定された宛先に送信されます。

・検査・配送ルールの判定結果よりも暗号化除外グループの指定が優先されますが、暗号化除外グループに設定されたメールアドレスと暗号化除外グループに設定されていないメールアドレスが同時にエンベロープTOに設定されたメールが暗号化の対象となった場合は暗号化されます。

(3)添付ファイル自動暗号化ファイル名指定機能追加

仕様追加により自動暗号化後の添付ファイル名を指定することができるようになりました。

追加されたパラメータの説明、設定方法については以下の通りです。

■追加されたパラメータについて

設定ファイルパス（管理サーバ）:
/opt/Guardian/Admin/etc/wall/mss.conf

[Encrypt]セクション
EncryptFileName =〈ファイル名〉

■指定方法

1）管理サーバ上の設定ファイル「/opt/Guardian/Admin/etc/wall/mss.conf」に以下の記述をします。

[Encrypt]セクション
EncryptFileName =〈ファイル名〉

※項目がない場合は[Encrypt]セクションに追記してください。
※[Encrypt]セクションがない場合は、上記を追記してください。

2）以下コマンドを実行し、検査サーバへ設定を反映させます。

```
# /opt/Guardian/Admin/support/pushMailWall -r conf
```

※上記コマンドを実行した場合、検査サーバのサービス再起動が発生致しますので、一時的に、メールの保存・配送などの遅延が発生致します。

■その他

・ファイル名に使用できる文字は「半角英数- = + . _」です。

・ファイル名の先頭及び末尾に「.」を使用することはできません。

・ファイル名に使用できる文字の最小は3文字、最大は40文字です。

・ファイル名に特殊文字「$ENCTIME」を使用することで、タイムスタンプに置き換えることができます。
例えば、「EncryptFileName = $ENCTIME」の場合、自動暗号化後のファイル名は、「YYYYMMDDhhmmss.zip」となります。

・特殊文字「$ENCTIME」は展開後の長さは14文字ですが、8文字としてカウントされます。

・特殊文字「$ENCTIME」を使用できるのは1回のみです。

・ファイル名を指定していない場合は、デフォルトである「YYYYMMDDhhmmss.zip」が適用されます。

2.仕様変更

(1)アマノタイムスタンプの署名アルゴリズムSHA2への変更対応

GUARDIANWALLタイムスタンプサービス（オプション）について、暗号の2010年問題対応に伴い、 2012年2月19日に使用される署名アルゴリズムがSHA1withRSAからSHA256withRSAに変更されます。

この変更に合わせて、GUARDIANSUITE（管理サーバ）のアーカイブ検証プログラムを修正します。

(2)自動暗号化機能有効時のパスワード生成アルゴリズム変更

添付ファイル自動暗号化機能有効時にZIPファイルに付与するパスワードの生成アルゴリズムを変更しました。

3.修正点

(1)特定の状況下で稼動状況レポートの数値が正常に表示されない場合がある

[共通]→[管理サーバー管理]→[拡張機能]→[スケジューラー]にて設定可能な稼働状況レポートについて、サーバの連続稼動時間によっては、平均負荷(Load average)の数値が正常に表示されない場合があります。

同様に、メール検査サーバにインストールされている稼動監視スクリプト「watch.pl」についても、サーバの連続稼動時間によって、平均負荷(Load average)の数値が正常に表示されない場合があります。

(2)特定のファイルを含むメールのインデキシングに失敗する

bzip2脆弱性を突くファイルを添付するメールのインデキシングに失敗(REJECT)するため、全文検索システムにて当該メールを検索することができない問題が発生します。

(3)検査・配送ルールの登録失敗時に画面が正しく表示されない場合がある

[メール]→[ポリシー設定]→[検査・配送ルール]にて編集したルールの登録に失敗したとき、以下の【スクリプトエラー】が表示され、エラー画面が正しく表示されない場合があります。

【スクリプトエラー】

[09-Dec-2010 16:19:42] PHP Fatal error: Call to a member function setMessage() on a non-object in /opt/Guardian/Admin/htdocs/mail/policy/rule/regist/step1.php on line 45

(4)圧縮ファイルの展開後のサイズが設定値より大きい場合でも展開される場合がある

圧縮ファイルの展開後のサイズが、サーバ設定ファイル(/opt/Guardian/Admin/etc/wall/mss.conf)にて設定されているMaxExtractFileSize（展開ファイルの最大制限サイズ）の値以上となるときでも展開してしまう場合があります。

(5)GUARDIANWALLの管理サーバ、検査サーバに対して、ウェブブラウザから不正なURLでアクセスされると、OS上に存在するユーザ名を確認できてしまう場合がある

GUARDIANWALLの管理サーバ、メール検査サーバに対して、ウェブブラウザから不正なURLでアクセスされると、OS上に存在するユーザ名を確認できてしまう場合があるという脆弱性があります。

(6)バージョン情報を開くとscript_errorが出力される

GUARDIANWALLの管理画面メニューにて、管理サーバや検査サーバの[バージョン情報]画面を表示した際、各サーバ上の/opt/Guardian/Admin/logs/script_error に、次のような警告メッセージが出力されます。

<script_errorログ出力例>

[10-Mar-2011 11:29:35] PHP Warning: dir (/opt/Guardian/backup) [function.dir]: failed to open dir: No such file or directory in /opt/Guardian/Admin/lib/php/rpc_server_funcs.php on line 1515

(7)ldap_import.plで"--reload"オプションのみ（全グループ対象）にすると検査サーバへのグループ設定同期処理がエラーになる

GUARDIANWALLのグループ情報を、LDAPサーバからインポートするためのスクリプト(ldap_import.pl)において、コマンド引数にグループ名を指定せず、"--reload"オプションのみで実行した場合、検査サーバへの設定同期処理が失敗し、検査サーバのグループ情報ファイル（/opt/Guardian/WALL/etc/group/<グループ名>.addr）が更新されません。

(8)個人情報検査時に特定のファイルでセグメンテーションエラーが発生する

GUARDIANWALLで個人情報検査を行うルールを設定している場合に、zipやlzh等で圧縮された特定の添付ファイルが送信されると、メモリのセグメンテーションフォルトが極稀に発生します。

(9)サポートスクリプトrescue.plで設定リストアするとApacheが起動できない

GUARDIANWALL V6.0～7.1の検査サーバにおいて、サポートスクリプトrescue.plで取得した各設定のバックアップファイルから同スクリプトによりリストアした場合、検査サーバのApacheが起動できない問題が発生します。

(10)保存メール検索時に未実装のデータベースへのアクセスが発生する

GUARDIANWALLの保存メール検索時に、データベースアクセスに失敗したことを通知する以下のようなシステムログが出力される場合があります。

<システムログ出力例1>

mw_search_db[<PID>]: db_open: cannot open database. "<アーカイブログディレクトリ>/.counter.db" unable to open database file (rc=XX)

〈システムログ出力例2〉

mw_search_db[<PID>]: db_prepare: no such table: counter(rc=XX) ".counter.db"

mw_search_db[<PID>]: cc_count_line: prepare failed.

(11)保留メール管理で問合せコード先頭にスペースを入れた場合の動作

保留メール管理の個別処理方式画面にて、問合せコード入力時に先頭にスペースを付加して入力した場合、保留メール本文は表示されますが、その画面から送出／削除／転送を行おうとすると、「問合せコードが間違っています。」とエラーが出て処理できない問題が発生します。

(12)標題が空白文字や改行文字のみの保留メールの本文閲覧ができない

保留メールの一覧処理方式画面で、メール標題が空白文字や改行コードのみである（エンコードされていること）保留メールのMSGID をクリックすると、「リクエストされた検査サーバーは存在しません」と表示される問題が発生します。

(13)自動暗号化機能有効時にエンベロープFROMが空のメールが送信できない

GUARDIANWALLで添付ファイル暗号化機能を有効にしている場合、エンベロープFROMが空(MAIL FROM:<>)のメール(エラー通知メール等)が、暗号化処理中にエラーとなり送信できない問題が発生します

(14)差出人条件／宛先条件に仕様を超える長さの文字列を入力できてしまう

GUARDIANWALLの検査・配送ルールの設定において、差出人条件／宛先条件の[簡易設定]リンクから開く設定用補助画面から、最大サイズ(8192バイト)を超える文字を入力することができ、サイズを超えた分は無視され正常動作しない問題が発生します。

(15) 検査・配送ルールの入力に誤りがあってもエラーメッセージが表示されない

検査・配送ルール編集画面にて、入力したルールに誤りがあった場合、エラー画面は表示されますが、他に表示されるべきエラーメッセージが表示されない問題が発生します。

(16)グループを条件として指定した場合のログ検索結果や統計情報が、実際の内容と異なる場合がある

以下のグループを条件として指定したログ検索や統計情報にて、画面に表示される結果やダウンロードで取得される内容が、実際の内容と異なる問題が発生します。

①保存メール閲覧/リストアメール閲覧で、グループを条件として検索を行う際、アドレス指定部表記(E=やE~=)のアルファベット部分を小文字で指定した場合に表示された検索結果画面からCSVダウンロードや一括ダウンロードで取得される内容

②ログ閲覧/リストアログ閲覧の統計情報において、グループを条件として指定する際、「~=」を指定した場合に表示された統計情報画面からダウンロードで取得される内容

③ログ閲覧/リストアログ閲覧の統計情報グラフにおいて、グループ条件を指定する際、「~=」を指定した場合に表示される統計情報グラフ、およびダウンロードで取得される内容

(17)通知文に長い表題が設定された場合、通知文を受信したメーラで正しく表示されない場合がある

GUARDIANWALL検査サーバのMSP(Mail Submission Program)がPostfixまたはqmailの場合、長い表題の通知文が設定されていると、この通知文を受信したメーラによっては、通知文のヘッダ情報の一部が本文部分に表示される問題が発生します。

(18)暗号化パスワード通知メールのヘッダーFromアドレスが変更できない

GUARDIANWALL設定ファイル(mss.conf※)内で、[NoticeMessage]セクションのMailAddressキーで通知メールのFROMアドレスを変更する設定を行っても暗号化パスワード通知メールのFROMアドレスが変更されない問題が発生します。

※GUARDIAN設定ファイル

検査サーバ: /opt/Guardian/WALL/etc/mss.conf

管理サーバ: /opt/Guardian/Admin/etc/wall/mss.conf

(19)ZIPファイルのパスワード有無チェックが正しく動作しない場合がある

GUARDIANWALL 検査サーバにおいて「圧縮ファイルを展開しない」設定にしている状態で、ZIPファイルのパスワード有無判定を行っている場合、稀にパスワード付きZIPファイルの判定に失敗する問題が発生します。

(20)特定のキーワード設定でキーワード検査が正常に行えない場合がある

GUARDIANWALL 検査サーバのキーワード検査で、同じ文字を含むキーワード式を設定し運用している場合、設定キーワードを含む内容を送信しても、検出されない問題が発生します。

例えば、1つ目のキーワードセットにキーワード式"社外秘"、2つ目のキーワードセットにキーワード式"外"を設定し、2つ目のキーワードセットを使いキーワード検査する運用をしている場合に本事象が発生する可能性があります。

また、メールログ閲覧画面および保存メール閲覧画面において検索条件に論理式形式で指定すると、同様に検索漏れの問題が発生します。

(21)拡張展開機能を有効にしている場合、検査・配送ルールの数値条件に指定可能なfiletypeパラメータのタイプ文字列が設定できない

管理画面上より検査・配送ルールを設定する際に数値条件のSIZE関数、ATTACHMENT関数などのfiletype パラメータで拡張展開機能有効時に下記タイプ文字列が設定できない問題が発生します。

指定不可となっていたタイプ文字列：

7ZIP、ARJ、RPM、DEB、ISO、MSI、HQX、AS、TNEF、SZDD、PACK

(22)特定のメールに対して添付ファイル自動暗号化を行うと、オリジナルメッセージ中の添付ファイルが暗号化されず添付される場合がある

添付ファイル自動暗号化機能はMIMEマルチパートの1つ目のパートを本文として扱い、そのパートを残して暗号化ZIPファイルを添付送信しているため、添付ファイル自動暗号化機能を有効にしている場合でも、メールの形式によってはオリジナルメッセージ中の1つ目の添付ファイルが暗号化されずに送信されてしまう問題が発生します。

(23)セキュリティの強化

GUARDIAN 管理サーバ、全文検索システム、GUARDIANWALL 検査サーバのセキュリティを強化しました。

(24)保存メール検索時の指定文字列によって一括ダウンロードが正常に行えない

保存メール閲覧にて以下の問題が発生します。

①保存メール閲覧にて、発信者アドレス、受信者・同報者アドレス、メール標題に論理式を指定すると一括ダウンロードができません。

②保存メール閲覧にて、発信者アドレス、受信者・同報者アドレス、メール標題にフレーズキーワードを指定すると一括ダウンロード時の検索条件として認識されず、意図しないメールも一括ダウンロードされます。

③保存メール閲覧にて、発信者アドレス、受信者・同報者アドレス、メール標題に空白文字を入れた文字列を指定すると、一括ダウンロードの操作ログに記載される検索条件(補足欄)の内容が不正になります。(空白以降が記録されません)。
また一括ダウンロードしたメールを再検索により特定できません。

(25)管理者メールアドレスを複数指定時、テストメールが複数送信される

管理画面[メール]→[システム管理]→[基本設定]→[管理者メールアドレス]に、複数のメールアドレスを指定し、「[設定]ボタンクリック時にテストメールを送信する」にチェックを入れ、[設定]ボタンを押下すると、管理者メールアドレスに指定した数と同じ通数のテストメールが送信される問題が発生します。

(26)自動暗号化機能有効時に、本文無しの添付ファイル付きメールを送信するとエラーとなりメールの送信に失敗する場合がある

GUARDIANWALLで添付ファイル自動暗号化機能をONにしている場合、本文無しの添付ファイル付きメールを送信すると、エラーとなりメールの送信に失敗する場合があります。

また、GUARDIANWALL V7.4 の新機能である一時保留機能と併用している状態で、本文無しの添付ファイル付きメールの送信に失敗した場合、当該メール以外の一時保留メールについても送出が不可能となる問題が発生します。

(27)自動暗号化機能有効時に、複数個の同名ファイルを添付したメールを送信した場合、同名ファイルのうち1つのファイルのみ暗号化される

自動暗号化機能有効時に、複数個の同名ファイルを添付したメールを送信すると、パスワード付き暗号化ファイルに集約する際に同名の添付ファイルが上書きされ、受信メールに含まれるパスワード付き暗号化ファイルには同名の添付ファイルが1つしか含まれないという問題が発生します。

同名で中身の異なる場合でも本事象が発生するため、送信者が意図したファイルが正常に送信されない場合があります。

(28) 自動暗号化機能有効時に、添付ファイル名に半角カナが含まれているとメール送信ができない場合がある

GUARDIANWALLで添付ファイル自動暗号化機能をONにしている場合、添付ファイル名に半角カナが含まれているとメールの送信に失敗するという問題が発生します。

また、GUARDIANWALL V7.4 の新機能である一時保留機能と併用している状態で、添付ファイル名に半角カナ文字を含んだメールの送信に失敗した場合、当該メール以外の一時保留メールについても送出が不可能となります。

(29)自動暗号化機能有効時に、宛先によってメールの送信に失敗する場合がある

自動暗号化機能有効時に、エンベロープToに「-(ハイフン)」から始まるアドレスが含まれている場合にメールの送信に失敗する問題が発生します。

(30)LDAPサーバ複数台設定時、末尾のサーバ障害が発生すると他サーバがアクセス可能でも接続エラーになる

LDAP サーバを複数台設定時に末尾のサーバでアクセス不可等の障害が発生すると、他のLDAPサーバが正常な状態でも、管理者による管理者アカウントでの認証に失敗し、管理サーバにログインできない問題が発生します。

(31)全文検索システム利用時、一時ファイルのオープンに失敗するとエラーがループし、optが100%になるまでエラーを出力し続ける

全文検索システム利用時に検索コマンドが検索終了後に一時ファイルを削除するタイミングと、画面処理が検索中と判断し一時ファイルを読み込むタイミングが偶然重なった場合、画面処理側が一時ファイルを読み込めずPHPエラーが発生いたします。

この際、ループの条件であるEOFを正しく検知できず無限ループとなり、/opt が100%になるまでエラーを出力し続けるという問題が発生します。

(32)管理サーバパラメータの設定画面でエラーメッセージが文字化けする

管理サーバパラメータの設定画面で、管理者メール通知の「通知メール差出人コメント」に日本語を含む文字列を指定した状態で、リストアDBディレクトリ（操作ログ）を空でないディレクトリに指定して設定を行うと、通常「リストアDBディレクトリが空ではありません。」と表示されるはずのエラーメッセージが文字化けする問題が発生します。

(33)操作記録のログ閲覧で「00時00分」からの検索ができない

操作記録の検索時に、時間範囲指定で「00時00分」を指定した場合（終了時刻は、24時00分以外)に､対象時間以外の検索結果も表示されるという問題が発生します。また、時間範囲指定で「左時間」＞「右時間」を時間範囲に指定した場合に、本来であれば、左右時間を入れ替えて検索しますが、その機能が効いていないという問題があります。

(34)操作記録のログ閲覧で時間範囲を指定した場合、終了時刻を含んだ結果が表示され、指定時間外にチェックを入れた場合は、終了時刻を含んだ結果が表示されない

操作記録の検索時、時間範囲を指定した場合、終了時刻を含んだ結果が表示され、指定時間外にチェックを入れた場合は、終了時刻を含んだ結果が表示されない問題が発生します。

(35)検索条件に特定の日本語文字列を入れて検索すると、 条件文字列が文字化けして検索条件が変わり、結果が正しく表示されない

検索条件（※1）に特定の日本語文字列（※2）を入れて検索すると、以下の操作を行った際に条件文字列が文字化けして検索条件が変わり、結果が正しく表示されない問題があります。

■管理画面[共通]→[運用監査]→[操作記録]／[リストア操作記録]
ページ遷移、CSVダウンロード

■管理画面[メール]→[保存メール管理]→[メール閲覧]／[リストアメール閲覧]
ページ遷移、CSVダウンロード、一括ダウンロード

■管理画面[メール]→[ログ閲覧]→[ログ閲覧]／[リストアログ閲覧]
→[統計情報]，[統計情報グラフ]
CSVダウンロード

→[情報検査ログ], [保留メール操作ログ], [保存メール閲覧ログ]
　ページ遷移、CSVダウンロード

※1上記画面の検索条件に日本語文字列が入力できる箇所すべて
※2 その文字を構成するバイト列が、UTF-8とEUC-JPのどちらであると解釈しても文字が割り当てられているものを指します。 1バイト目：C2-DF 2バイト目：80-BF
（例）連、鳥、鳩、隼、離、陸

(36)管理画面及びサポートスクリプト「rescue.php」による設定リストア後、差出人自身による一時保留メール管理画面のサーバ起動スクリプト「Guardian.pub」が起動しない

管理画面及びサポートスクリプト「rescue.php」による設定リストア後、一時保留機能がオンの場合であっても、差出人自身による一時保留メール管理画面のサーバ起動スクリプト「Guardian.pub」が起動しない問題が発生します。

(37)監査基本設定で設定保存機能をオンにしている場合、グループ数が多いと設定保存できない

監査基本設定で設定保存機能をオンにしている場合に、グループ数が多いとグループ登録をすることはできますが、続いて実行される設定保存機能でエラーが出力され、設定保存できないという問題が発生します。

(38)全文検索の検索結果が多いとき、メモリ不足でCSVダウンロードができない

全文検索（※）の検索結果が多い場合にCSVダウンロードを行うと、エラーが表示され、CSVダウンロードを行うことができないという問題が発生します。
※ 全文検索の検索結果の目安は約23万件です。

(39)添付ファイルにキーワードが含まれているにも関わらず、キーワード検査でマッチしない

キーワード検査の対象となるテキストが32KB以上あるときに、キーワードが含まれているにも関わらず、キーワード検査でマッチしない場合があります。

(40)テキスト抽出に失敗した場合、不正なレスポンスコードを前段に返す

GUARDIANWALL にてキーワード検査を実施する際、テキスト抽出が失敗してしまった場合に出力されるエラーメッセージについて、前段のMTAが送信エラーのレスポンスコードと判断してしまい、何度もメールの再送が行われる場合があります。

(41)受信者宛暗号化パスワード通知メールのSubjectがMIMEエンコードされていなかったために、MTAによって受信拒否される

自動暗号化機能において、受信者宛のパスワード通知メール送信時にSubjectに「暗号化パスワード通知メール」という日本語文字列を挿入して送信していますが、この際、SubjectをMIMEエンコードせず、ISO-2022-JPのまま送信するという問題が発生します。

その結果、一部のMTAで受信者宛の暗号化パスワード通知メールが受信拒否されます。

(42)個人情報検査で、全角スペース直前の姓が検出されない

姓と名の間に全角スペースが入る場合に、特定の姓について個人情報として検出されない場合があります。

例）青木□太郎　※□を全角スペースとします。

以上